

## 式 辞

校庭の桜の芽が膨らみ始め、冬枯れの景色の中にも春を待ちわびた生命が躍動し始めたこのよき日に、門川町副町長 金丸隆康様、門川町教育委員会 教育長 新原 とも子 様、西門川小中学校PTA会長 川内田 岳史 様のご臨席を賜り、西門川中学校第65回卒業式を挙行できますことを高い席からではございますが、心から感謝申し上げます。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにこういう形での実施となりましたことをお詫びしたいと思います。

さて、本校を卒業されます19名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほど皆さんに手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了した証明です。同時に9年間の義務教育を修了した証でもあります。今日から自分の選んだ道を歩み始めることとなります。65年の歴史を誇る西門川中学校の最後の卒業生として、どうぞ、自信と誇りをもって4月から始まる新しい生活に臨んでください。

私はこの1年間、「チャレンジ」(挑戦)と「チェンジ」(変革)というテーマを掲げてきました。みなさんには、「常に勇気をもって挑戦してください。そして、自分を変えてください。あるいは、自分の周りを変えてください」とお願いしてきました。「失敗を恐れて何もしないよりも挑戦してみよう。たとえ失敗してもいいじゃないか。失敗したことを責めるより、挑戦したことを認めよう。」

皆さんは、自分なりの「チャレンジ(挑戦)」をしてきました。小中合同運動会や学習・文化発表会、生徒会活動、部活動などの活躍からそれが伝わってきました。また、学習面においても、授業中の発表回数を増やす努力をしたり、家庭学習の習慣を身に付けるためにノートを工夫したり、各種検定やコンクールに挑戦している姿を見て、とてもうれしく、頼もしく感じました。これらのことから、新しい自分の力を感じ、自信が持てた人もいました。また、高校入試の面接練習の時に、一人一人のしっかりした考えや将来への意気込みを聞くことができ、皆さんの成長を感じる事が出来ました。どの行事にも「最後」がつくというプレッシャーにも屈することなく、素晴らしい実績をつくって来ました。とてもうれしくまた、誇らしく思います。

人生はいつも「チャレンジ(挑戦)」の連続です。保護者、先生方、来賓の皆様、関係機関の皆様、地域の皆様がみんなを応援し、支えてくれることを忘れず、そのことに感謝しながら、一步一步確実に進んでください。

さて、卒業生の皆さん。これから生きていく中で、苦しいこと、悲しいことがあると思います。そんな中、私の心を救ってくれたことばがあるので紹介します。さだまさしさんの曲に「主人公」という曲があります。その中にこういう歌詞があります。「あなたは教えてくれた ちいさなものがたりでも 自分の人生の中では だれもがみな主人公 ときおり 思い出の中であなたは ささえてください わたしの人生の中では わたしが主人公だと」 たとえ、他の人が、大きくまぶしく見えてたとしても、自分が情けなくとても小さく見えたとしても、自分からしたら、他の人はみんな脇役なのです。自分の人生の主人公は自分だということを忘れないでもらいたい。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまで、大切に育て、今日を迎えられた保護者の皆様方のお喜びは、計り知れないものがあるかと拝察いたします。心よりお祝い申し上げます。

私ども職員も、子供たちとともに3年間、苦楽を共にし、全力で教育活動に取り組んでまいりました。十分ではない点もあったとは思いますが、それにもかかわらず、ご協力とご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。

それでは、皆さんの前途に幸多かれと祈り、私の式辞といたします。

令和2年3月16日

門川町立西門川中学校 校長 後藤 直樹